



流通科学大学

商業系等資格特別推薦入試

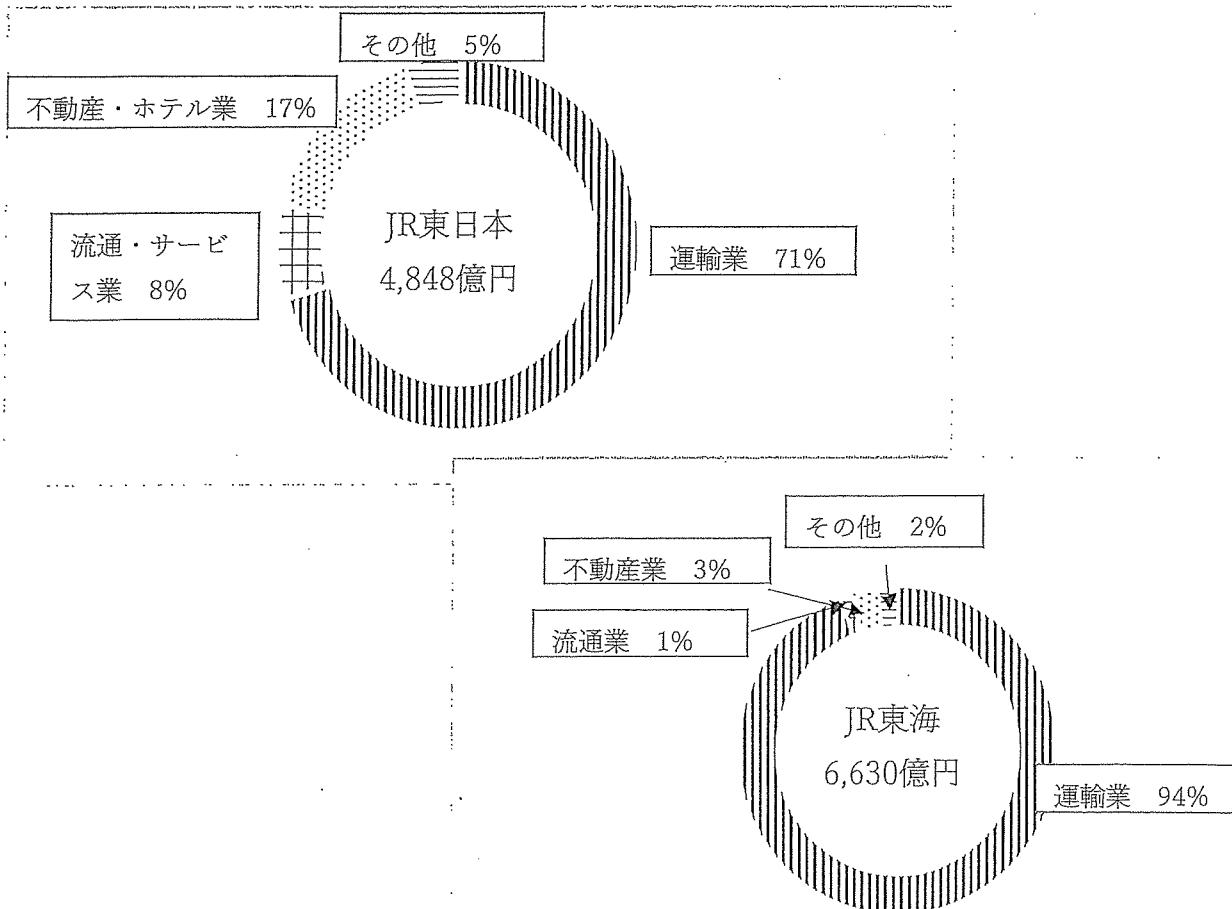
過去問題集

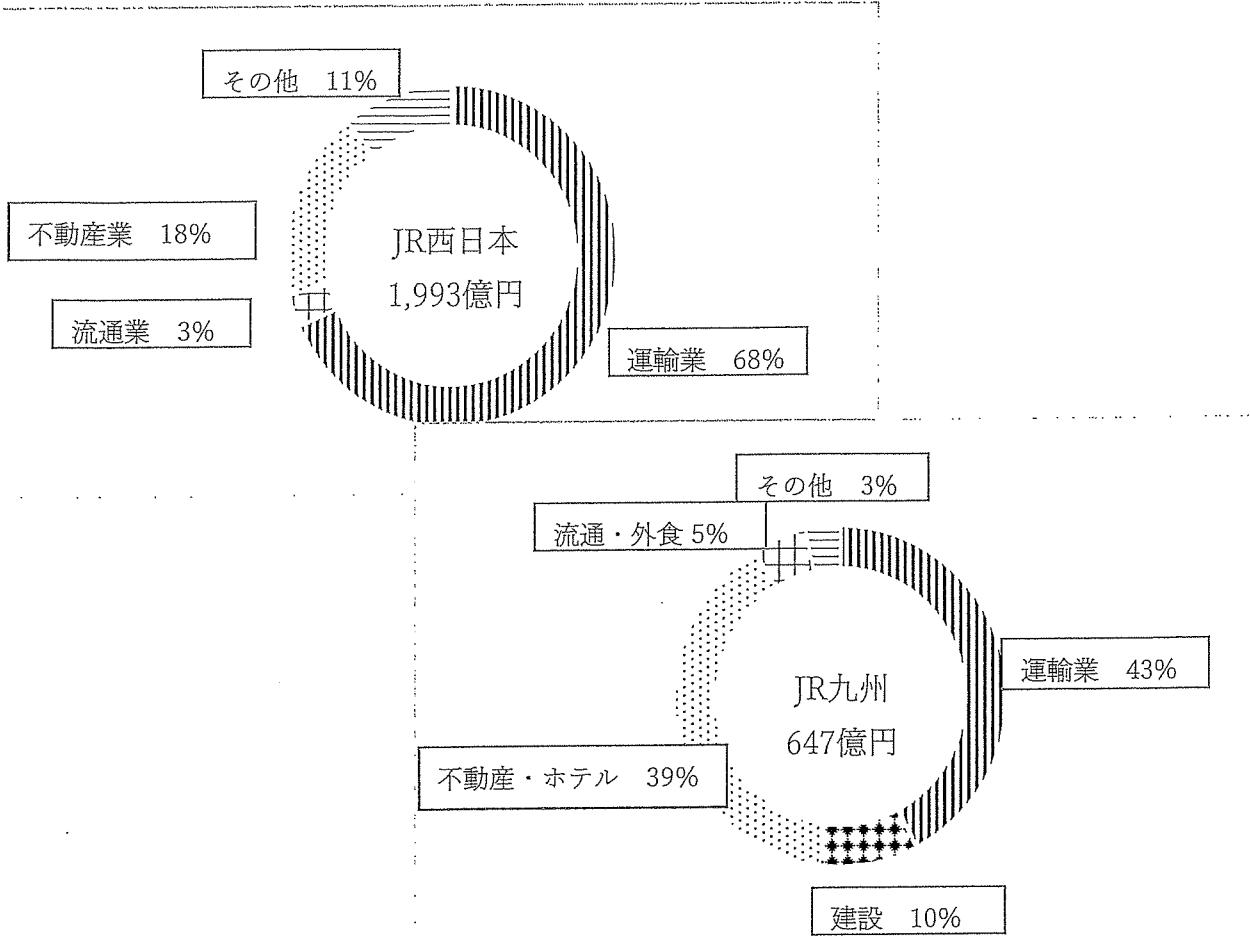


日本のJR（昔の名称は国鉄）は1987年に6社に分割されて、それぞれ別々の鉄道会社と経営されることになった。それ以来、各社はそれぞれの方針に基づいて発展してきた。下の4つの円グラフは6社のうちの4社の1年間の利益を示している。円グラフの中心の数字は年間の利益額（億円）を示し、その利益がどのような事業から得られているかの割合をドーナツ状の円グラフで示している。現在のJRは主要なビジネスの鉄道（運輸業）だけで利益を上げているわけではないことが読み取れる。鉄道事業以外に、所有している土地を活用して、ホテルを建てたり、駅近くにコンビニや各種の店舗を誘致しショッピングセンターを経営したりしている。JRの行う事業内容は多様化していることが分かる。また、この4社のJRは新幹線の営業もしている。運輸業でも各JRによって新幹線の利益に対する貢献度が違っている。会社の収入にどの程度新幹線が貢献しているかは、「運輸事業の新幹線収入と在来線収入の割合」の表で、運輸事業全体の収入を100%としたときの各収入割合を示している。

元々は1つであったJRだが、現在は、それぞれのJRは異なった特徴をもつ企業に育っている。提示されている円グラフと表から、各JRの利益獲得の手段にどのような特徴があるか各自読み取って、600～800字にまとめてください。必ずしもすべての会社に言及する必要はありません。2つのJRを比較して特徴を見つけてもよいし、4社を総合的に比べて特徴を見つけ言及してもよい。あなたがこのグラフと表で気づいた点をまとめ感想も記述してください。

図表1 JR各社の利益とその内訳割合





図表2 運輸事業の新幹線収入と在来線収入の割合

	新幹線	在来線
JR 東日本	32%	68%
JR 東海	92%	8%
JR 西日本	52%	48%
JR 九州	36%	64%

資料出典：各 JR のホームページ

近年、観光等のため日本を訪れる外国人、訪日外国人（インバウンド）が急増しています。観光庁によると、2018年には訪日外国人の数が初めて3000万人を突破し、その消費額は、4兆5189億円に達しました。消費額の国別ランキングをみると、1位が中国、2位が韓国、3位が台湾、4位が香港となっており、これら4か国・地域で全体の67.5%を占めています。また、訪日外国人の消費の56%は飲食代となっています。訪日外国人の増加は、日本の経済や社会にどのような影響を与えていると思いますか。良い影響と悪い影響の両方について、あたなの考えを述べてください。（600字～800字）

以上

（裏）

【問 題】

これは、2019年6月23日の朝日新聞に掲載された社説である。この文章を読み、児童虐待防止の観点から、子どもの発したSOSが大人にしっかりと届くために必要なことについて、あなたの考えを600～800字で述べてください。

※実際の試験では、社説を別添しておりますが、
過去問題の紹介においては、著作権の関係から掲載は致しません。